

## <産業振興ビジョンの戦略(案)>

| 戦 略 (案)           |                                      | 戦略(案)の要旨   | 取り組み案、事例   |
|-------------------|--------------------------------------|--|--|
| 1<br>既存産業の更なる成長促進 | 1-1. 製造業の強みを次世代に引き継ぐための中核的企業の発掘と成長促進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市は戦前から南海の工都と呼ばれ、伝統的な地場産業の発展、高度成長期の重化学工業の発展とともに成長してきた、製造業中核型の都市である。この特色と強みを次世代に引き継いでいくために、製造業の持続的な成長を促していく。</li> <li>・鉄鋼業、はん用機械器具製造業、化学工業など付加価値額の割合や労働生産性が高い業種が引き続き成長するとともに、食料品製造業のように雇用面や取引形態で影響力が大きい、生産性や付加価値額(特化係数)が全国と比べると改善の余地がある業種の成長も必要。</li> <li>・本市経済への波及効果の大きさ、産業集積による競争力向上といった観点から、コネクタターハブ、ニッチトップ、オンリーワン企業など、中核的企業として成長が見込まれる企業(予備軍)を発掘し、成長を促進していく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・付加価値の高いものづくりの実践、製品の創造<br/>(キーワード:企画提案型、魅力ある商品、二次元から三次元へ、高感性・高感性、多品種・少量、クイックレスポンス、マーケットイン、効率化、情報化、平準化・複合化 →つながり大切にスピーディーな実践)</li> <li>・総花的ではない支援策(革新的なチャレンジを行う企業への支援、企業ニーズをきめ細かに把握した効果的な支援等)</li> <li>・特徴的な技術を有する企業を発掘、産学連携コーディネート等を行い、ニッチトップなどの中核的企業への成長を促進</li> <li>・専門家チーム等による企業戦略支援、販路拡大支援、技術力向上支援</li> <li>・企業訪問等による予備軍の情報収集、情報の発信(各方面への共有)</li> </ul> |
|                   | 1-2. 歴史と伝統ある紀州産業の持続的な発展を目指すためのブランド化  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・繊維、木材、皮革等の地場産業は、江戸時代に興った産業の流れを汲むもので、明治期に至り、関連部門から多くの産業が派生した。戦後の高度成長期の発展、低成長期から海外との厳しい競争を経て今に至る。</li> <li>・長い歴史と伝統を持ったこれら地場産業の集積は、地域資源のひとつと言え、魅力ある産業集積として持続性を保つためには、海外製品等との差別化を図り、高い付加価値を創造していかなければならない。</li> <li>・繊維工業のように、事業所が多く本市の雇用を支えている業種の高付加価値化を図ることで、大きな波及効果が期待できる。</li> <li>・地場産業が競争力を持った産業として発展していくために、デザイン性やブランド力の高い製品の創出を促進する。</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山ブランドの確立</li> <li>・デザイン性や機能性の高い完成品の創出(製革、家具等)</li> <li>・新機能の探索(繊維、木材)</li> <li>・付加価値の高いものづくりの実践、製品の創造<br/>(キーワード:企画提案型、魅力ある商品、二次元から三次元へ、高感性・高感性、多品種・少量、クイックレスポンス、マーケットイン、効率化、情報化、平準化・複合化 →つながり大切にスピーディーな実践)</li> <li>・地域団体商標の申請への支援</li> <li>・展示会開催、販路開拓、PRの強化などの支援</li> <li>・専門家チーム等による企業戦略支援、技術力向上支援</li> </ul>  |
|                   | 1-3. 地域の生活を支えるサービス産業の生産性向上           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス産業(第3次産業)は、市内総生産の6割、従業員数の7割を占める。対面型が主であるため雇用吸収力が高く、また、住民生活の質向上に密接に関係する業種である。</li> <li>・製造業等が域外から得た資金は、地域内のサービス産業に消費という形で流れていくが、本市のサービス産業が全国と比較して労働生産性が低いことから、資金を好循環させるための十分な付加価値が生み出されていない、または、人材を効率的に活用できていないと考えられる(このままでは、人口減社会における働き手不足に対応できない)。</li> <li>・地域内における十分な消費、その循環を生み出すことができるサービス等の提供と、人材の効率的な活用のため、サービス産業の生産性の向上を図る。</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベストプラクティスの共有</li> <li>・労働生産性を向上できる経営者の育成(意識改革を含む)</li> <li>・サービス産業の生産性を向上するための人材育成</li> <li>・ICT活用による生産性向上</li> <li>・高付加価値な商品、サービスの提供(→生産性向上)</li> <li>・中心市街地商業の活性化</li> <li>・医療、介護、ヘルスケア産業の活性化と生産性向上</li> </ul>   |

## <産業振興ビジョンの戦略(案)>

| 戦 略 (案)              |                                       | 戦略(案)の要旨  | 取り組み案、事例  |
|----------------------|---------------------------------------|---|---|
| 2<br>新事業創出と産業間連携の活性化 | 2-1. 生活を豊かにする新ビジネスの創出と起業家の育成          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市は開業率が全国平均よりも低く、廃業率が開業率を上回っている。起業家の育成や事業承継の円滑化、第二創業の動きを活性化し、産業の健全な新陳代謝を図る必要がある(廃業により取引先が市外企業に変更してしまうなどの事態を避けるため、起業しやすい風土づくりによる若者の流出抑制のため等にも必要)。</li> <li>・また、少子高齢社会を迎え、行政だけでは細やかなニーズに対応することが難しい状況が発生している。住民の細やかなニーズに柔軟かつ機動的に対応するためには、企業等による事業性を持ったサービスの提供が必要である。</li> <li>・企業側から見ても、新たなビジネスチャンスと捉えることができ、また、CSR(社会的責任)を発展させたCSV(共益の創造、事業活動を通じて社会的な課題を解決していくことを目指す経営理念)が求められている。</li> <li>・これら社会的課題を解決するためのビジネスをはじめ、新たな事業と起業家の育成を支援し、住民生活の質を向上するサービス等の創出を図る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的課題を解決する企業家への支援</li> <li>・地域の問題、社会的問題を解決するビジネス(コミュニティビジネス、ソーシャルビジネス)の創出支援</li> <li>・起業意識の育成(地域経済だからトップを目指せるといった起業の魅力)</li> <li>・起業しやすい環境の醸成</li> <li>・まちなかにおける新規創業</li> <li>・女性の起業促進</li> <li>・次世代産業の創出</li> <li>・第二創業の促進</li> <li>・IT産業の育成→労働生産性の向上</li> <li>・高齢社会に対応したヘルスケア、シルバー産業の集積</li> <li>・クラウドファンディングの活用</li> </ul> |
|                      | 2-2. 和歌山の特産・特性を活かした、6次産業化やコラボレーションの促進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の特産である新生姜、大根、しらすだけでなく、紀の川流域や県内で大きな収穫量を誇る、みかん、かき、もも等を含めた6次産業化を検討していく。</li> <li>・本市の産業集積の特性を活かし、企業間連携による共同受注、産学金官連携による新製品の開発や新規事業の創出等を行い、付加価値の向上を図る。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・果実を総合的に扱うコンビナートの構築(まずは、コンビナート構想勉強会の立ち上げ、メリットが実証できれば、協議会を立ち上げる。)</li> <li>・企業間連携による共同受注</li> <li>・産学間連携による6次産業化</li> <li>・産学金官連携による企業の成長促進、新規事業の創出</li> <li>・異業種交流の促進(市内企業間、市内と市外企業間等)</li> <li>・化学と繊維工業の融合など</li> </ul>   |
|                      | 2-3. 和歌山の魅力を総動員した企業立地の推進              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業立地の推進により、雇用の増加や既存産業への波及効果、産業集積による競争力強化等が見込まれる。他市からの誘致が重要であるとともに、既存企業が事業規模を拡大するときに、市内に立地したいと考えてもらえるような環境づくりが必要。</li> <li>・財団法人日本立地センターの調査によると、自治体に求める立地条件の強化対策等として、「人材確保・育成」が40.4%で、次いで「税制・補助金等の優遇制度」を挙げている企業が37.2%、「地域間交通アクセス」が24.2%となっている。また、立地選定時に重視する要件としては、「用地価格」が68.6%と突出して高く、次いで「交通条件」が46.6%となっている。</li> <li>・交通インフラの利点、職住近接の環境、鉄鋼業・化学・機械工業など競争力の高い企業の集積、和歌山の特産に関連したブランドイメージ、企業立地奨励金の特長(近畿圏ではトップクラスの内容)など、和歌山に立地する魅力を総動員でアピールし、企業立地を推進していく。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業が進出、事業規模拡大をしやすい環境整備</li> <li>・企業立地に係る行政手続きの総合的な相談窓口の設置</li> <li>・交通インフラを活用した企業立地の推進(例えば、京奈和自動車道の整備を活かした中京圏の企業との連携)</li> <li>・基本インフラの整備</li> </ul>   |

## ＜産業振興ビジョンの戦略（案）＞

| 戦 略（案）  | 戦略(案)の要旨   | 取り組み案、事例  |
|---|--|---|
| 3<br>観<br>光<br>業<br>の<br>「<br>稼<br>ぐ<br>力<br>」<br>の<br>強<br>化 | <p>3-1. 地域資源の再評価等によるブランド力の強化と観光資源の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市には数多くの地域資源があるが、ありすぎて際立たせることができず、どれも他のまちにもあるものと自ら諦めてしまうことさえある。しかし、他のまちを見てみると、本市より数少ない地域資源の魅力を打ち出し、多くの誘客に結びつけている例がある。</li> <li>・記紀神話に多くの地名が登場し、万葉の時代には都の人の憧れの地、自立心に富んだ雑賀衆の活躍、徳川御三家の城下町といった魅力ある長い歴史を持ち、陸奥宗光や松下幸之助といった多くの偉人などを輩出している本市は、まだまだポテンシャルを活かしきれていないのではないか。</li> <li>・自分たちのまちの魅力（歴史、文化、自然、産業、農業、漁業などの地域資源）を洗い出し、掘り起こすなど再評価するとともに、物語性を持った新しい価値を見出し、魅力ある観光資源として強くアピールできるよう磨き上げていく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源のテーマ別整理、体系的な整理による重点項目の選定</li> <li>・地域資源のストーリーづくり(紀州徳川、万葉、街道ストーリーなど)</li> <li>・観光資源のブランド化</li> <li>・観光資源の世界標準に対応したブラッシュアップ</li> <li>・観光客に魅力をアピールするために必要なインフラ等の整備</li> <li>・案内板(名所や駐車場等、シンプルで統一感をもった表示)など基本的なインフラの整備</li> <li>・地元素材を使う料理店、食の魅力の活用</li> <li>・農業体験、釣り、ビーチリゾートなど市の特色を生かした観光資源の創出</li> <li>・農業、漁業の観光化(グリーン、ブルーツーリズム)</li> <li>・和歌山城とその周辺の魅力づくり</li> <li>・産業の強みを観光資源に(企業の魅力を観光に活かす。工場見学等)</li> <li>・IR、高級リゾート施設の検討</li> <li>・道の駅の整備</li> <li>・和歌山大学観光学部との連携</li> </ul> |
|   | <p>3-2. 和歌山観光の効果的プロモーションによる滞在型観光の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の観光動態を見ると、宿泊客の割合が少なく、日帰り客の割合が多い。これは滞在型の観光となっていない証であり、滞在型の観光へとシフトすることによって、1人あたりの観光消費額の増大を図る。</li> <li>・磨き上げた観光資源を滞在型の観光商品として構築、提案する。</li> <li>・ホームページや映像アーカイブなど情報発信の充実を図り、強かに売り出していく。</li> <li>・県内や広域道路網で結ばれる他都市との広域連携による誘客プロモーションや、地域別、国別を考慮した誘客プロモーションを実施する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地域づくりプラットフォーム、コンシェルジュ機能の整備</li> <li>・観光客の滞在及び消費の促進</li> <li>・和歌山市だけ、又は本市を含む県内だけで完結する観光コースを確立</li> <li>・高野山、熊野との連携(高野＝山、本市＝海、それぞれの魅力を活かす)</li> <li>・その他県内観光資源(海岸線、パンダ等)との有機的連携</li> <li>・京奈和道の整備による京都・奈良・伊勢志摩とを結ぶ観光ルートの検討</li> <li>・紀北、県内の宿泊ベースキャンプとしての機能を構築</li> <li>・通過型から宿泊滞在へ(夜の観光等の活用)</li> <li>・体験型観光の充実(マリンスポーツ、農業・漁業体験などを織り交ぜた観光コースづくり)</li> <li>・宿泊した場合の楽しい時間の使い方の提案(まちに出て、お金を使う場所や機会を提案)</li> </ul>  |
|   | <p>3-3. 外国人観光客の誘客拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本全体の人口が減少し内需規模が減少する中、年々増加している訪日外国人観光客の取り込みはどの自治体においても命題となっており、外国人観光客とその消費額の増加が求められている。</li> <li>・国の試算では、外国人観光客一人あたりの消費額は約12.4万円であり、10人の旅行者を呼び込むことで、定住人口1人の年間消費額に相当するとしている(本市の最新の調査では、ここまでの一人あたり消費額は生み出せていないと推測される)。</li> <li>・外国人に対する情報発信や観光資源のアピールを強化、国別ターゲットの設定など、誘客方法を再構築し、誘客数の増加と一人当たりの消費額の増加を目指す。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人へのホームページ等の情報発信の強化(多様化、多言語化等)</li> <li>・外国人の多様性を考慮した観光資源のアピール</li> <li>・消費額の動向を考慮したターゲットの設定(「観光で稼ぐ」との視点)</li> <li>・宿泊のみの訪問から、市の魅力による観光目的の訪問(滞在型観光)へ</li> <li>・外国人に対応した観光地の整備(案内表記、案内窓口、展示物等)</li> <li>・「おもてなし」や「治安」だけではない外国人が本当に魅力を感じることができる観光資源の構築(外国人の興味・多様性、外国人の視点を的確に捉えた取り組み)</li> <li>・免税店の拡大</li> <li>・外国人が滞在中に困らない環境の整備(多言語パンフレットなど)</li> <li>・外国人が買い物や食事がしやすい環境づくり(多言語コミュニケーションボード、メニューの多言語表記など)</li> <li>・目的別ツアーをプランニングした観光バス等による観光客の取り込み</li> </ul>                     |

## <産業振興ビジョンの戦略（案）>

| 戦 略（案）                     |                            | 戦略(案)の要旨  | 取り組み案、事例   |
|----------------------------|----------------------------|---|--|
| 4<br>産業を支える「ひと」の確保と「まち」の形成 | 4-1. 和歌山を愛し、暮らし働く人材の育成・確保  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市は長年、進学や就職による人口の転出超過が続いてきた。進学・就職を機に市外に出て、そのまま市外に定住してしまう例が多い。更に2003年からは出生数を死亡数が上回る自然減によっても人口が減少している。</li> <li>・今後、より人口減少が進むと、経済規模が縮小、それに伴い雇用も住む人も減少し、更に経済が縮小という悪循環に陥る恐れがある。</li> <li>・大学生の意識調査から、希望の就職先が市内にない、また、情報不足のため市外の企業を選んでいる者が多く、積極的に市外を選択しているものはそう多くないことが分かっている。</li> <li>・本市産業が持続的な発展をしていくために、その原動力、基盤となる人材が必要である。和歌山に誇りを持ち、和歌山を生活と仕事の場として選択してもらえるような環境づくりと人材の育成を図っていく。</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちに誇りを持ち、まちを愛する人材の育成、郷土愛の醸成による定住者の増加、Uターンの素地づくり</li> <li>・各分野で成功している市出身者（主に市外在住）による人材育成事業</li> <li>・製造業を支える理系人材の確保（若者へのPR、市内の高い技術力のある企業の紹介等）</li> <li>・大学生、高校生の県内、市内就職の促進（インターンシップ、企業見学の促進など）</li> <li>・大学等の教育機関の充実など地域で子育てを完結できる環境づくり</li> <li>・企業による人材育成への支援</li> <li>・技能継承支援、職業訓練</li> <li>・経営者の育成（地域経済に必要な知識と人間性を備えた経営者、後継者の育成）</li> <li>・人材の受け皿となる魅力ある企業が必要（受け入れ側の地元企業のブランド力向上、大企業にはない市内企業の魅力の周知）</li> <li>・子育て世代（35歳～44歳）の流出抑制、流入増加</li> <li>・和歌山で暮らす魅力（通勤、物価、自然等）の発信</li> </ul> |
|                            | 4-2. 女性・高齢者など誰もが働きやすい環境づくり | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、構造的な人出不足に直面し続ける地域経済が成長力を維持するうえで必要となるのは、労働参加率の向上であり、そのためには、女性と高齢者の就業率を高めることが重要。</li> <li>・女性の就労により、社会のニーズにマッチした製品やサービスを生み出す素地が広がる（世の中の半分は女性、女性ならではの目線が必要）</li> <li>・高齢者の就労により、長い年月で培った多くの経験と技能を若い人材に伝えることができる。</li> <li>・以上のことから、女性や高齢者など意欲ある人の就労を促進する取り組みを行う</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く意欲のある女性、高齢者、障害者が円滑に働ける環境づくり（働き手不足を見据えた、女性、高齢者等の人材活用）</li> <li>・子どもを預けて安心して仕事ができる環境づくり</li> <li>・子育てによって一時的に職から離れていた女性の就労支援</li> <li>・定職に結びつかない若者等への支援</li> <li>・フレキシブルな労働形態に対応する企業支援</li> <li>・きれいな職場で働けるよう→職場環境改善費補助など</li> <li>・働き方改革の推進（長時間労働の削減、年次有給休暇の取得促進、適正な条件の下での多様な働き方の普及、女性の活躍促進のための社内体制の整備など）</li> </ul>  |
|                            | 4-3. 産業を支えるまちづくりの推進        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス産業（第3次産業）は、「生産と消費の同時性」の性質があり、需要密度が生産性に大きく影響を与える。地域の人口規模と密度が生産性に及ぼす影響が大きい。サービス産業活性化のためにも、都市機能を集約し、まちなかへ居住の誘導、郊外の開発を抑制するコンパクトなまちづくりが重要である。</li> <li>・一方でメリハリのきいた土地利用により、土地の生産性を上げ、産業活性化を図ることも重要である。</li> <li>・交通インフラは、産業や生活の基盤となるもので、アクセス性が、製造・物流業の発展、企業立地の成否、観光客の誘客などに大きく影響する。このような重要性を認識しつつ、戦略的な整備を進めていかなければならない。</li> <li>・まちの顔、土地利用、道路網整備といったまちづくりは、商業、製造業、観光業などの産業振興と密接に関係している。産業を支えるまちづくりとの観点をもって、都市計画を検討していく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパクトシティの推進（立地適正化計画の策定）</li> <li>・中心市街地活性化</li> <li>・郊外の開発抑制</li> <li>・京奈和、第二阪和、南インター整備（南港山東線含む）</li> <li>・都市再構築戦略事業（和歌山城、JR和歌山駅整備、南海和歌山市駅前周辺整備等）</li> <li>・LRT等公共交通機関の検討</li> <li>・（例えば、和歌山城を中心とするコンパクトな環状公共交通網の整備。既存JRに、不足するところにLRTやDMV等を導入。環状線外の住宅地から環状線内に入るLRT等を結び、公園前や市役所前まで乗り入れる。中心市街地のトランジットモール化など）</li> </ul>  |